

★インクルファンド助成団体の活動を紹介します★

Calin 昭島 ロングサポート・La・Nature (ナチュラル)

生活クラブ運動グループ・昭島地域協議会の市民版地域福祉計画に基づく事業として、Calin(カラン)昭島は2016年に重症心身障がい児の児童発達支援および放課後等デイサービス事業を行う「キッズサポートてんとうむし」を設立しました。「キッズサポートてんとうむし」は昭島市をはじめ、近隣地域にも重症児の通所事業所が少ないため、利用児の登録者数が増えキャンセル待ちの状況にあり、3年後特別支援学校高等部を卒業する生徒も利用していたことから、卒業後の居場所づくりが課題でした。

このような現状を踏まえ、昭島地域協議会の第2期市民版地域福祉計画には児童発達支援及び放課後等デイサービスの受け入れ枠を増やすこと、卒業後の居場所づくりの必要性が盛り込まれました。そして、Calin 昭島では児童発達支援と卒業後の通いの場、生活介護の多機能型事業所「ロングサポート・La・Nature (ナチュラル)」を新設し、「キッズサポートてんとうむし」は放課後等デイサービス事業の



↑インクルファンドで購入した車両

みとすることで、利用人数の拡大を図ることとしました。今年5月の開設にあたり、インクルファンドでは利用者の送迎に欠かせない、福祉車両の購入にかかる297万円を助成しました。La・Natureとはフランス語で自然であることを意味し、ありのままの自分を大切にしてほしいという願いが込められています。

現在、地域協議会の機関紙で団体紹介や利用者や職員の様子などを発信するほか、まちのほっとスペース「ここっちゃん」へのお出かけなどの連携もすすめていきたいと考えています。また、昭島市にも重症心身障がい児・者のことを知ってもらうために散歩コースに市内の公共施設をたくさん活用するなど、誰もが暮らしやすいまちづくりに向け活動されています。

インクルーシブ事業連合事務局 平岡晴子



↑右が代表の清水敦子さん。この日はスタッフも子どもたちもハロウインの仮装中。お散歩中には近所の方から可愛いね〜と声がかかります。

一般社団法人 Calin 昭島
所在地:昭島市上川原町 3-8-20
お問合せ TEL・FAX:042-808-8852

サポーター登録のお願い あなたの1日10円で、つながり・支えあう豊かなまちを!

インクルファンドではこれまでに居場所づくり、子育て支援、障がい者(児)支援事業など、様々な分野の活動団体に助成を行ってきました。財源となるのはサポーターの登録寄付(1口300円/月)です。ぜひサポーターになって地域福祉のしくみづくりをご支援ください。

- 班・個別配送の方は OCR 用紙に6桁の注文番号と申込口数をお書きください。



生活クラブのインターネット決済 **くらぶ** からもお申込みいただけます。(12月3回)

*登録寄付は中止のお申し出がない限り継続します。

すでに登録されている方は、改めての申し込みは不要です。

インクルファンド登録寄付	1口300円
申込期間	12/7(月)~12/11(金)
注文番号	101923
集金月	2021年1月

- デポ組員の方は 下記の申込書をファックスまたは郵送していただくか、WEBページからご登録ください。 <https://www.inclusive-gr.com/supporter/> 
- お問合せ: インクルーシブ事業連合事務局
生活クラブ東京たすけあいネットワーク事業部 TEL:03-5426-5207 FAX:03-5426-5203

お名前	組合員コード番号
お電話番号	
申し込み口数	()口・・・1口 300円/月

*ご記入いただいた個人情報は、インクルーシブ事業連合のサポーター登録およびお知らせの送付に限り使わせていただきます。

つながって実現! 市民主体のまちづくり型福祉

インクルーシブ通信

2020年12月
VOL. 34



発行:生活クラブ運動グループ・インクルーシブ事業連合 発行責任者:田中のり子 <http://inclusive-gr.com>

〒156-0051 東京都世田谷区宮坂 3-13-13 生活クラブ・東京内 TEL 03 (5426) 5207 FAX 03 (5426) 5203

どう変わる?介護保険 学習会報告

インクルーシブ事業連合では、市民福祉情報オフィス・ハスカップ主宰の小竹雅子さんを講師に招き、2021年度介護保険改定に向けた学習会「介護保険・どう変わる?」を行いました。

2000年に利用者の「自己決定・自己選択」の制度として介護保険法が施行されてから現在までのサービスや利用者負担の変化、現在の制度のしくみ、来年4月に行われる改正に向けたポイントなど分かりやすく説明していただきました。

総合事業を利用している要支援者が要介護者に移行する場合、利用者の意向を前提とした上で市区町村の判断により、それまで利用していた総合事業のサービスを引き続き利用できるにしようという今回の省令改正案に対し、本来介護保険給付を受給する権利があるにも関わらず、



利用を制限してしまうのはどうなのか、自治体によりサービス内容に差が生じてしまうのではないかなどの問題点を共有しました。

参加した運動グループのメンバーからは、社会保障審議会の最新情報を踏まえた説明で勉強になった、問題点を的確に話していただき分かりやすかったなどの感想があり、とても有意義な学習会となりました。

介護保険制度の当初の基本である、「認定を受けた人にきちんと受給権を認めるという原則を守るべき」という言葉が印象的でした。現場や地域の声を聞きながら自分たちの望むような制度にしていこうとどうしたら良いか考え声を上げていくことが大切だと感じました。今回の学習会を踏まえ、国への政策提案や地域での活動に繋げていきたいと思っています。

インクルーシブ事業連合事務局 藤田彩加

介護の仕事を知る!シリーズ①

NPO ACT 町田たすけあいワーカーズ

町田たすけあいワーカーズは、訪問介護・小規模多機能型居宅介護を専門とする介護事業所です。また、2018年2月からは生活クラブ生協のサービス付き高齢者向け住宅センテナル町田の運営を受託しています。訪問介護やセンテナル町田での生活援助などを担当する、代表の川口敦子さんにお話を聞きました。配送ワーカーズから始まり、親の介護をきっかけに研修を受け、介護の仕事に転職。ワーカーズコレクティブでの仕事歴は30年に及びます。介護される人もする人も共に笑顔になれることを頑張る、それが原点だといいます。


介護の仕事のやりがいについては「介護の仕事は奥が深く、知らないこと、自分の知識が及ばない事実に出会い、工夫して対応するやりがいがある。大変な事例ほど勉強になり、仕事を通して自分が成長できるという面白さを多くの人に経験してほしい。」

と、川口さん。

今後に向けては、誰もが生きやすい社会を作るための「学びの場」や「楽しい居場所」を作ること、そして「私らしい働き方が光るワーカーズ」という生き方を分かち合える仲間をより多く増やしていきたいと思っています。



興味のある方はこちらまでご連絡ください!

町田たすけあいワーカーズ
町田市旭町 1-23-2 生活クラブ館まちだ 1階
TEL:042-729-1130
<http://actmachi.sakura.ne.jp/> 

【インクルーシブ事業連合構成団体】生活クラブ生協・東京/NPO法人アビリティクラブたすけあい (ACT) 社会福祉法人悠遊/東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合/東京・生活者ネットワーク/東京 CPB (コミュニティパワーバンク) 認定 NPO 法人市民シンクタンクひと・まち社/認定 NPO 法人まちぼっと/環境まちづくり NPO エコメッセ

東京都への予算要望を提出

インクルーシブ事業連合では、毎年、会員団体から集めた現場の声をもとにした予算提案を東京都に提出しています。

10月14日、東京・生活者ネットワークの代理人（都議会議員）山内玲子さんのコーディネートのもと、2021年度の東京都の予算に対する提案を提出しました。高齢者・障がい者・子どもへの支援活動、地域の居場所づくり活動等に関する提案に対し、保健福祉局の総務課長からは策定中の予算案に生かせるものは生かしていきたい、また、国に要望すべき点はしていくとのこと回答でした。提案がそのまま予算化されるわけではありませんが、市民の声を伝え、税金の使われ方に反映することはとても大切なことです。市民と行政をつなぐ代理人の存在はたいへん大きいと実感しています。

東京・生活者ネットワーク代理人の山内玲子さん（左端と



インフォメーション



生活クラブエッコロこども基金フォーラム

大変な今こそみんなで一緒に！
地域で支え合い育ちあう環境づくりを

日時：2021年2月25日（木）10：00～12：00（開場9：30）

講師：認定NPO法人びーのびーの理事長 奥山千鶴子さん

2000年4月、横浜市にて地域の親たちと共に「おやこの広場びーのびーの」を開設されました。その後、内閣府・厚生労働省・文科省等の様々な委員等を歴任され、NPO法人子育てひろば全国連絡協議会理事長として、子育て家庭の支援に様々な活動や発信をされています。

会場：生活クラブ館 地下スペース（世田谷区宮坂3-13-13 小田急線経堂駅より徒歩3分）

主催：生活クラブ生協・東京 参加費：無料

★オンライン（ZOOM）での参加を希望される方はメールにてご連絡ください。

お問合せ・お申込み先

生活クラブ生協・東京 たすけあいネットワーク事業部 担当：平岡
TEL 03-5426-5207 FAX 03-5426-5203 メール/haruko.hiraoka@s-club.coop

2020年度第2回 インクルファンド助成選考結果

今回の助成には2件の応募がありましたが、取り下げもあったため、1件のみの審査となりました。9月14日、プレゼンテーションおよび選考委員会を行い、運動グループ・町田地域協議会の市民版地域福祉計画に基づく事業の立上げ費用として、町田・ワーカーズまちの縁がわ小山田桜台の「ほっとスペースさくらさくら」の立上げに対して2,997,000円の助成を決定しました。

10月29日には小山田桜台商店街にあるURの空き店舗を改修したほっとスペースにて開所の集いが行われました。商店街のみなさんや町田市の福祉担当の方、桜美林大学の学生さんなど大勢の人が集まりにぎやかなお披露目となりました。

地域に根差した居場所であるとともに地域の資源をつなぐコーディネイト拠点として定着し、発展・継続していくことを期待したいと思います。



代表の石毛瑛子さん

インクルーシブ事業連合構成団体の活動を紹介します

認定NPO法人 まちぽっと 市民による豊かな地域社会づくりを応援



まちぽっとは、NPO法人東京ランポ（1993年設立）と、NPO法人コミュニティファンド・まち未来（2003年設立）の合同合併により、2007年12月に設立されたNPO法人（2011年認定NPOに）です。

東京ランポは「市民活動促進法」制定をめざして法人格制度の立法過程に当初から参加、事務局としてNPO法の成立に関わり、市民活動やまちづくりの分野で政策やしくみの提案を続けながら市民による豊かな地域づくりの支援を続けてきました。

今やNPO認証法人数は5万1000を、認定NPOも1100を超えています。またコミュニティファンド・まち未来は、生活クラブ東京が生み出した機能、市民出資による東京コミュニティパワーバンクや、本邦初めての市民の寄付による草の根市民基金・ぐらん、起業講座などにより社会的起業を促進し、継続・定着させるために必要な「お金」の支援を進めてきました。「まちぽっと」という名称は市民の小さな団体（ぽっと）の特性を生かしながらネットワーキングにより協働し、持続可能な豊かな地域社会をつくるというミッションを遂行するイメージです。

NPO法制定時にすでに顕在化しつつあった地球環境問題や新自由主義、グローバリズムによる貧困や格差の問題が、コロナ禍により一層顕著になっています。今、市民の活動がさらに重要性を増しています。まちぽっとは少子超高齢社会を支える空き家の福祉的な活用や居住支援などのまちづくりの提案や社会変革を求めてアドボカシー・カフェでの社会対話を進めるとともに、運営している3つの基金（草の根市民基金・ぐらん、SJF ソーシャル・ジャスティス基金、Pecs 市民社会強化活動支援事業）により市民によるまちづくりや社会課題の解決に向けてともに活動を進めます。

まちぽっとの活動に共感して下さる方は会員登録や寄付でのご支援をお願いいたします。認定NPO法人ですのでもちぽっとや3基金へのご寄付は税金の寄付金控除や、相続時の税優遇をお受けになれます。

認定NPO法人まちぽっと理事長 佐々木貴子

認定特定非営利活動法人 まちぽっと

TEL：03-5941-7948

FAX：03-3200-9250

<http://machi-potto.org/>



「地域の子どもを地域で見守る」

生活クラブ・東京では、子育て子育てに身近な人が伴走するまちづくりを目指し、「生活クラブエッコロこども基金」を創設しました。組合員からの寄付とエッコロたすけあい制度の掛け金の一部を原資として、都内で子どもや子育て家庭の支援を伴走型で行う団体の活動を支援します。



基金の創設を記念し、9月5日にNPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク代表の栗林知絵子さんを講師にフォーラムを開催しました。

豊島子どもWAKUWAKUネットワークはプレーパークの活動から始まり、それが無料学習塾や子ども食堂の取り組みに発展、さらにホームスタートや宿泊機能をもつWAKUWAKUホームの開設や、地域連携を生かしたフードピックアップの活動へと広がるなど、地域の子どもをめぐる課題解決のプロセスとして様々な活動を展開されています。

今年は新型コロナウイルス感染防止緊急事態宣言下で、複数の子育て支援団体や学校が休校となる中、

生活クラブエッコロこども基金スタートフォーラム

豊島区と連携して緊急食料支援「としまフードサポート」や「としまランチサポート」などの活動を行い、食の支援を通じて困窮家庭の孤立防止や困りごとの相談につないでいます。

これらの活動は単なる食糧支援に留まらず、困りごとを抱えた人が子育てを応援する地域のネットワークにつながる機会になると考え、貧困をなくすために地域の公的支援団体・民間支援団体・市民が連携し、地域のつながりによるセーフティネットをつくることを目指しています。



また、2015年から活動を開始されたみかづき子ども食堂（武蔵野市）の砂川直美さんからは、住宅街の中で近隣対応の難しさも抱

えながら活動を継続し、現在は都営住宅の集会所を借りてお米やパン、レトルト食品などを必要な家庭に届ける活動を行っていることが報告されました。生活クラブエッコロこども基金では、このような地域の活動を支援し、地域のセーフティネットづくりを推進していきます。

インクルーシブ事業連合事務局 平岡晴子